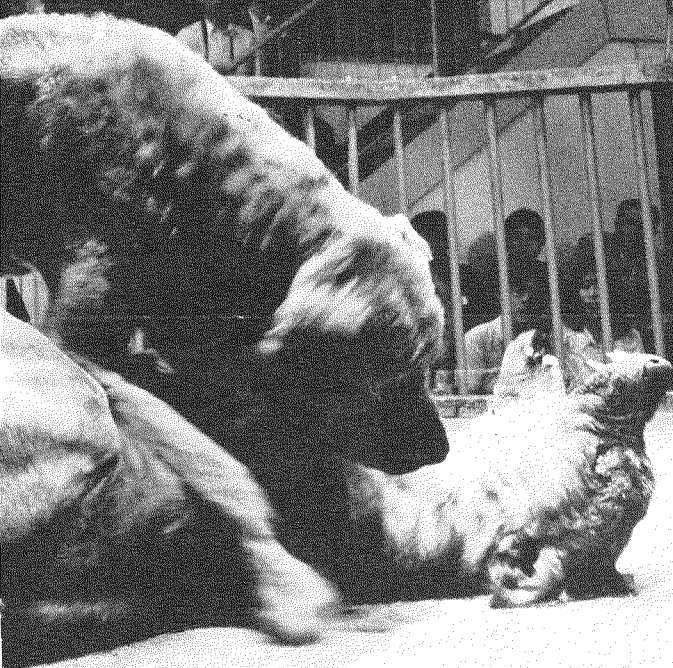


壮絶極まる闘犬シーン
血が飛び、毛が舞い、動物特有の
臭いが鼻をつく。闘犬士が掛け声を掛けるなか
5分間の制限時間内で、鳴き声を
あげるが、後ずさりしたほうが負けだ



「売られた喧嘩は買ってこい。転んでもタダじゃ起きない、高知果人の『いごっそう』を見せつけてこい」

日本を代表する闘犬士で、「土佐闘犬センター」のオーナー、弘瀬勝さん(31)はそう言って一人息子の隆司さん(26)を英国へ送り出した。5月31日のことだ。

土佐犬、土佐闘犬(土佐犬)をめぐ
る周囲が慌ただしくなったのは、5月
18日、英国中部ブラッドフォードで起
きた事件が発端だった。6歳の少女が
米国・テキサス州の闘犬として知られ
るビット・ブル・テリアに襲われ、重
傷を負った。

愛犬国として知られる英国社会だけ
に、この事件には敏感に反応し、1週
間もたたないうちにビット・ブル・テ
リアと土佐犬の輸入、飼育、繁殖を禁
止すると発表したのである。また、国
内にいるこの2種類の「闘犬」は、国
外に出さない限り棄殺する、という方
針を出すにまで発展した。冒頭の隆司
さんの英国行きは、今回の事件の実態
調査と、土佐犬冷遇に対する抗議のた
めだった。

「ちゃんちゃらおかしくて話にならん
わ。何も危害を加えておらんのに、輸
入禁止だとか殺すだとか海の向こうで
勝手にいいおつて。とんでもないとい
つちりだよ。だいたい土佐犬の性質は
元来おとなしいんだよ。確かに体は大
きいし、顔つきもゴツイ。土佐犬だか